

通常例会

司会

点鐘 12:30

国歌「君が代」「奉仕の理想」 斉唱

ホテル・ブエナビスタ

土屋久会場監督委員長

飯嶋司会長



【本日のゲスト】

米山奨学生：

鄭 佳妮(ティ・カニ)様



☆ポールハリスフェロー
ピン贈呈(幹事より)

(マルチプル第1回)

飯嶋司君

今月の祝・表彰

☆会員誕生：百瀬正容君、小笠原信隆君、斉川賢太君、花村恵子君

☆夫人誕生：太田隆治君、舘島豪君

☆皆出席：土屋久君(35年) 中田金一君(27年) 越場達祐君(15年) 花村恵子君(1年) 小畑啓君(1年) 清水一彦君(1年)



会長挨拶 飯嶋会長

今日は身近な例から、私たちがどのようにモノを選んで買っているかについて考えてみます。この考え方は、私が大学で建築デザインを学んでいた頃のもので、現代の消費を考えるには少し古いかもしれませんが。実は、人はモノに「物語」を付けたがるものです。これは、人間が太古の時代から変わらない、進化の過程で生まれた根源的な心理だと言われています。

例えば、このエレキギター用のピック。ごく普通のピックです。ですが、実はあの“ギターの神様”と呼ばれるエリック・クラプトンが使っていたピックらしいのです。そう聞くと、計り知れない価値を持つように感じられます。つまり私たちは、そのものの物理的な性質や機能ではなく、そこに宿る「意味」や「物語」に価値を見出してしまふのです。

こうした「モノに意味や物語を付与する」心理は、日常のあらゆる場面に現れています。例えば、コンビニで売っている1,000円の白いTシャツと、高級ブランドの5万円の白いTシャツを比べてみると、品質の差だけでは50倍の価格差は説明できません。そこには、「格調の高さ」や「一流であることの証」、「洗練されたライフスタイル」といった、ブランドが持つ“イメージ”や“物語”が付いているからです。このように、私たちはモノそのものの価値だけでなく、それに付随する“物語”や“イメージ”に影響されてモノを購入しているのです。つまり“物語”や“イメージ”そのものを「消費」しているとも言えるのです。こうした仕組みは、商品のマーケティングだけでなく、私たちのライフスタイル、さらには社会全体の価値観にも深く影響を与えています。そして、それは建築のデザインにも大きな影響を及ぼしています。

こうした「モノに意味や物語を付与する」心理は、日常のあらゆる場面に現れています。例えば、コンビニで売っている1,000円の白いTシャツと、高級ブランドの5万円の白いTシャツを比べてみると、品質の差だけでは50倍の価格差は説明できません。そこには、「格調の高さ」や「一流であることの証」、「洗練されたライフスタイル」といった、ブランドが持つ“イメージ”や“物語”が付いているからです。このように、私たちはモノそのものの価値だけでなく、それに付随する“物語”や“イメージ”に影響されてモノを購入しているのです。つまり“物語”や“イメージ”そのものを「消費」しているとも言えるのです。こうした仕組みは、商品のマーケティングだけでなく、私たちのライフスタイル、さらには社会全体の価値観にも深く影響を与えています。そして、それは建築のデザインにも大きな影響を及ぼしています。

幹事報告

小林あや幹事

1. 6月のロータリーレートは1ドル144円です。
2. 木曽ロータリークラブが、衛星クラブを設立しました。クラブ名は木曽ユースロータリーサテライトクラブで、所属グループは中信第二グループ、会員数は現在9名です。
3. 例会変更は、引き続き現在どのクラブでもビジター受付は実施されていません。ご了承下さい。
4. 古畑忠男会員が6月末で退会となります。次年度の会計監査は百瀬敏男会員に交代します。

出席委員会報告

小畑委員

本日6月6日 欠席3名 出席率約90.3%

ニコニコBOX報告

初山委員長

・次年度会長方針説明をさせていただきます。終了後、クラブ協議会もありますのでよろしくお願いします。村山君



・雑誌評論をさせていただきます。お願いします。高波君
・村山エレクト、次年度会長方針期待しています。ティさん今日も楽しんで下さい。飯嶋君
・高波さん、雑誌評論で有終の美を飾って下さい。舘島君
・40代最後です。小笠原君

〔會員誕生〕百瀬正容君、斉川君、小笠原君、花村君
〔夫人誕生〕太田君、舘島君〔皆出席〕土屋君、中田君、
越場君、小畑君、佐々木君、花村君
〔何となく〕井上君、吉池君〔前回欠席〕三澤君
〔写真掲載〕靱山君、永田君、眞峯君、百瀬敏男君、望
月君、北澤君、百瀬正容君

司会

永田プログラム委員



【雑誌評論】高波雄一郎委員

今年度3回目になる雑誌評論のボーナスチャンスをこのラストマンにいただきました。皆様に感謝の気持ちを込めて精いっぱいやって参ります。

まず横組4Pからの指定記事「RI 会長メッセージ」は、今年度の総括、アーチック会長の活動写真が掲載されています。本文ではポリオ根絶、分断だれた世界を癒す平和の取り組み、「孤独のパンデミック」が広がる世界における友情や目的、帰属意識の強化、「行動計画」立案と実施における目標の達成を成し遂げる力がロータリーにはあり、会員こそが「ロータリーのマジック」そのものだと思っています。

8P からはロータリーソングとは何かの特集記事です。創立2年目のシカゴ RC の会員ハリー・L・ラグルス氏が例え時に眠気を覚えたため、突然椅子の上に立ち上がり両腕で指揮をしながら歌い始め、15人の会員は指揮に従って歌いました。するとじんわりと幸福感や充実感が広がったことに、ポール・ハリスは「歌うことがクラブにいい雰囲気をもたらし、気分をさっぱりさせる」とし、合唱が定着し始めました。ポール・ハリス曰く会員が異なった方向に進もうとするとき、グループで歌うことはしばしば会員を再結集させる最良の方法である。ラグルスはそれを知っていた」と評しました。と、ここまで読んで私が「同じだ」思ったのは信州をあまねく歌う県歌「信濃の国」です。

日本でも独自のロータリーソングを作ること、英語歌詞を翻訳すること、が 1930 年神戸で行われた地区大会で、当時のガバナーで日本ロータリーの創始者である米山梅吉が唱え、採択されたことから加速していきます。その後、1951 年に「新味ある明朗な」新ロータリーソング募集が始まり、翌年地区大会で発表された入選曲の一つが「手に手つないで」でした。同年に日本ロータリーが東日本と西日本の 2 地区に分割されるタイミングでこれからも手を取り合おうという趣旨であった模様です。

14Pからは2025年の規定審議会の報告レポートです。
42Pには RI 指定記事が2本、ロータリー財団管理委員長からのメッセージ、カルガリー国際大会の紹介記事がありますのでご一読ください。

Mr. Wang

まず、国際ロータリー会長マリ
オ・セザール・マルティンス・デ・カ
マルゴ氏は、今年度のテーマとし
て「UNITE FOR GOOD ― よいこと
のために手を取り合おう」を掲げて
います。これを受け、第 2600 地区
は、地区テーマ「つなごう未来へ 信
「居心地の良い元気なクラブ」「新た
「百の言葉より一つの行動を起こす」
を掲げ、クラブの活性化と地域密着
る方針を示されました。

本クラブではこれらをふまえ、より魅力あるクラブづくりと、会員一人ひとりが活躍できる体制づくりに取り組んで参ります。特に DEI(多様性・公平性・インクルージョン)の考えを理解し、多様な価値観が活きる環境の醸成を図って参ります。ロータリーの原動力は「人」です。一人ひとりの力が地域、そして世界を少しずつでも良くしていくと信じています。

具体的な行動計画としては、クラブの長期計画に基づく現状把握と会員増強、他クラブや地域団体との連携、例会の質的向上、防災・減災に関する学びの場の提供、ローターアクトクラブや留学生支援、環境保全活動、そして My Rotary 登録率 100%達成を目標とします。

また、奉仕活動の原点として私たちが忘れてはならないのが、1923 年に採択された「ロータリーにおける社会奉仕の理念」です。この声明は、奉仕とはロータリアンの生き方そのものであり、ただの善意ではなく「実践によって成り立つ哲学」であることを強調しています。「超我の奉仕」の精神に基づき、私たちは日常生活や職業の中で奉仕を体現し、地域社会と協調しながら、決して独善的にならず、他者とともに力を合わせることを大切にしなければなりません。クラブは「奉仕の実験室」として、会員が奉仕の心を磨き、学び、行動する場でもあります。

さらに次年度へ向けては、3年計画の2年目として、クラブの現状を客観的に把握することを目的としたアンケート調査を実施予定です。結びに、本年度も皆さまとともに、温かく力強い奉仕の輪を広げていけるよう努めてまいります。引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【点鐘 13 : 30】

飯島会長

【現次期合同クラブ協議会】

